

## 「日本と朝鮮半島の関係史の学習」に地図を使おう

兵庫県 公立中学校教諭

日本の原始時代から古代について学習するとき、くらしの変化に重点をおいて調べさせることがある。生徒たちは、その大きな変化が中国や朝鮮半島からもたらされたことに気がつく。地図帳を使えば、そのことをさらに視覚を通し確認しやすい。

たとえば、「渡来人」を学習するとき、生徒たちは「渡来人」について、また「渡来人」がもたらしたものなどを調べてくる。そのとき、地図帳を使って学習を深めてみよう。

### 1. 地図帳 (p.23~24) で日本 (対馬) と朝鮮半島 (南部の海岸) との距離を調べる。

**生徒** 「70kmぐらい。」

**生徒** 「もっと近いところでは、50kmぐらい」

**先生** 「川西市から70kmの距離は、西は姫路市、南は洲本市・和歌山市あたりになる。」

**生徒** 「意外に近いなあ。」

### 2. 地図帳p.23②「朝鮮半島とのつながり」の地図を見て、気がつくことを発表する。

**生徒** 「渡来人と関係の深い神社や古墳が、いくつもある。」

**生徒** 「近畿地方・九州北部にとくに多い。」

**生徒** 「兵庫県・大阪府には、渡来人と関係の深い神社・寺院のマークが4つ、古墳のマークが2つある。」

**生徒** 「渡来人の上陸地点が、近畿地方には3か所ある。」など。

### 3. 地図帳p.23②の写真b「ソウルの博物館にある仏像」と写真c「京都広隆寺の仏像」を見て、気がつくことを発表する。

**生徒** 「写真のbとcの仏像は、ポーズが似ている。」

**生徒** 「朝鮮半島で2つつくられ、1つを日本にもってきた。」

**生徒** 「朝鮮半島でつくった人が、渡来人として日本に来て仏像をつくった。」など。

**先生** 「渡来人が伝えたものには、どんなものがあるのかな?」

**生徒** 「稲作、青銅器、鉄器。」

**生徒** 「高級な絹織物、土木・建築技術。」

**生徒** 「儒教、仏教。」など。

### 4. 古代日本の渡来人と地域に残る渡来人の歴史を結びつける。

川西市の近くに、渡来人と関係があると考えられる足跡や地名がある。

(1) 昆陽池、端ヶ池、昆陽寺 (兵庫県伊丹市)

伊丹市に渡り鳥の飛来で有名な「昆陽池」や「端ヶ池」という大きな池がある。また、その近くには、「昆陽寺」の大きな山門がある。その池や寺は、渡来人の子孫だった行基 (行基集団: 行基と彼が率いた集団) がつくった。

(2) 呉服、絹延橋、呉服神社 (大阪府池田市)

川西市と大阪府池田市の市境 (府県境) に猪名川が流れている。その両岸を結ぶ橋に「呉服橋」「絹延橋」があり、「呉服橋」を渡った近くには「呉服神社」がある。「呉服」「絹延」という名前から、この近くには機織り技術に関係していた渡来人の集団が住んでいた、と考えられている。地域に残る歴史と結びつけ、考えていきたい。

参考文献: 久保井規夫『入門 朝鮮と日本の歴史』(明石書店)、『兵庫のなかの朝鮮』『兵庫のなかの朝鮮』編著 (明石書店)